

# 九十九里町観光振興ビジョン



令和6年3月  
千葉県九十九里町



# 目 次

## 第1章 計画策定の趣旨・位置付け

|                 |   |
|-----------------|---|
| 1 計画策定の趣旨 ..... | 1 |
| 2 計画の期間.....    | 2 |
| 3 計画の位置付け ..... | 2 |

## 第2章 本町の観光の現状と課題

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 1 来訪者の特徴 .....                   | 3  |
| 2 地域資源 .....                     | 6  |
| 3 アンケート調査結果の概要 .....             | 9  |
| 4 観光関係者・関連団体等へのヒアリング調査結果の概要..... | 13 |
| 5 九十九里町観光の課題 .....               | 14 |

## 第3章 計画の基本的考え方

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 1 本町が目指す観光ビジョン .....     | 16 |
| 2 観光ビジョンの達成に向けた基本目標..... | 17 |
| 3 ターゲット戦略 .....          | 18 |
| 4 基本施策 .....             | 19 |
| 5 施策の体系.....             | 21 |

## 第4章 施策の展開

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1 夏の海を活かした観光振興 .....    | 22 |
| 2 食を活かした観光の振興.....      | 25 |
| 3 通年型観光を目指した新たな展開 ..... | 28 |
| 4 観光推進体制の強化 .....       | 33 |

## 第5章 リーディングプロジェクトの展開

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1 リーディングプロジェクトの設定 ..... | 36 |
| 2 リーディングプロジェクト構想案 ..... | 37 |
| 3 想定される事業手法 .....       | 38 |

## 第6章 計画の推進にあたって

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1 計画の進行管理 .....      | 39 |
| 2 町民・事業者との協働の推進..... | 39 |



# 第1章 計画策定の趣旨・位置付け

## 1 計画策定の趣旨

世界中をパンデミックに陥れた新型コロナウイルス感染症により、観光業界は大きな打撃を受け、急成長を遂げていたインバウンドは激減し、他産業においても経済活動の鈍化を余儀なくされました。観光業界では、コロナ禍をきっかけに、旅行者数よりも旅行者1人あたりの宿泊日数や消費額を重視した「量」から「質」への転換が起こり、長期滞在型観光や旅行先でテレワークを活用したワーケーションが活発化するなど、観光の需要に変化が生じています。

平成29(2017)年3月に「九十九里町観光振興ビジョン(平成29(2017)年度～令和3(2021)年度)」を策定し、地域資源の活用や来訪者と町民の交流促進、観光関連事業の活発化などを通じた観光振興を進めてきました。

九十九里浜は、日本の「白砂青松100選」や「渚百選」に選定されるなど、わが国を代表する海岸であり、夏の海水浴をはじめ、地曳き網、釣り、サーフィンなど海のレジャーのメッカとなっています。また、不動堂海岸にある九十九里ビーチタワーからは、日の出や海岸線、星空等の雄大な眺望を望めることができ、テレビやCMにも多く起用されています。さらに、本町は、古くから「いわしのまち」として知られ、江戸時代中期には、本町を含めた九十九里浜全域が日本全体の漁獲量の3分の1を占めるなど、いわしとともに発展してきました。近年では、ハマグリ産地としても有名となり、「焼きハマグリ」をはじめ、「酒蒸し」や「吸い物」等の料理が提供されるなど、豊かな食のまちとして栄えています。

観光面では、県内でも高い入込客数を誇り、飲食業や宿泊業といった地域経済の幅広い業種に効果が波及する産業となります。しかし、現在は価値観やライフスタイルの多様化が進んだ結果、見る・買うという観光スタイルから滞在・体験という観光スタイルに変化しつつあるため、それぞれのニーズに応える観光振興が求められています。

このような地域性を持つ本町においては、夏の観光リゾート地として多くの観光客で賑わう一方、その他のシーズンにおける観光客が少ないなどの課題も抱えており、今後とも本町が観光立町として発展していくためには、夏の観光客の満足度の向上を図ることは勿論のこと、オールシーズンで観光客が訪れ・賑わうまちづくりを目指していく必要があります。

そのため、令和6(2024)年度を計画初年度とする、新たな「九十九里町観光振興ビジョン」(以下、「本計画」という)を策定し、観光振興に向けたこれまでの取組を踏まえつつ、わが国有数の観光立町の実現に向け、更なる取組の強化を図っていくこととします。

## 2 計画の期間

本計画の期間は、令和 6（2024）年度から令和 10（2028）年度までの 5 年間とし、令和 6（2024）年度から令和 8（2026）年度までの 3 年間で取り組む施策を「リーディングプロジェクト」として位置付け、重点的な取組を進めていくこととします。

| 取組            | 実施年度 |     |     |     |      |
|---------------|------|-----|-----|-----|------|
|               | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| 九十九里町観光振興ビジョン |      |     |     |     |      |
| リーディングプロジェクト  |      |     |     |     |      |

## 3 計画の位置付け

本計画は、町の最上位計画である「第 5 次九十九里町総合計画」を上位計画とし、その他「九十九里町過疎地域持続的発展計画」、「九十九里町公共施設等総合管理計画」及び「九十九里町海岸施設個別施設計画」を関連計画として、整合性を図ります。

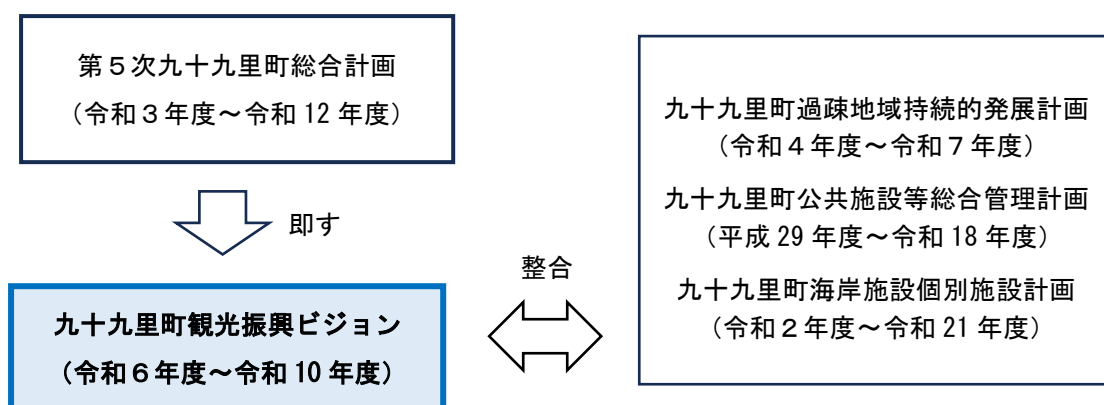


図 1-1 計画の位置付け



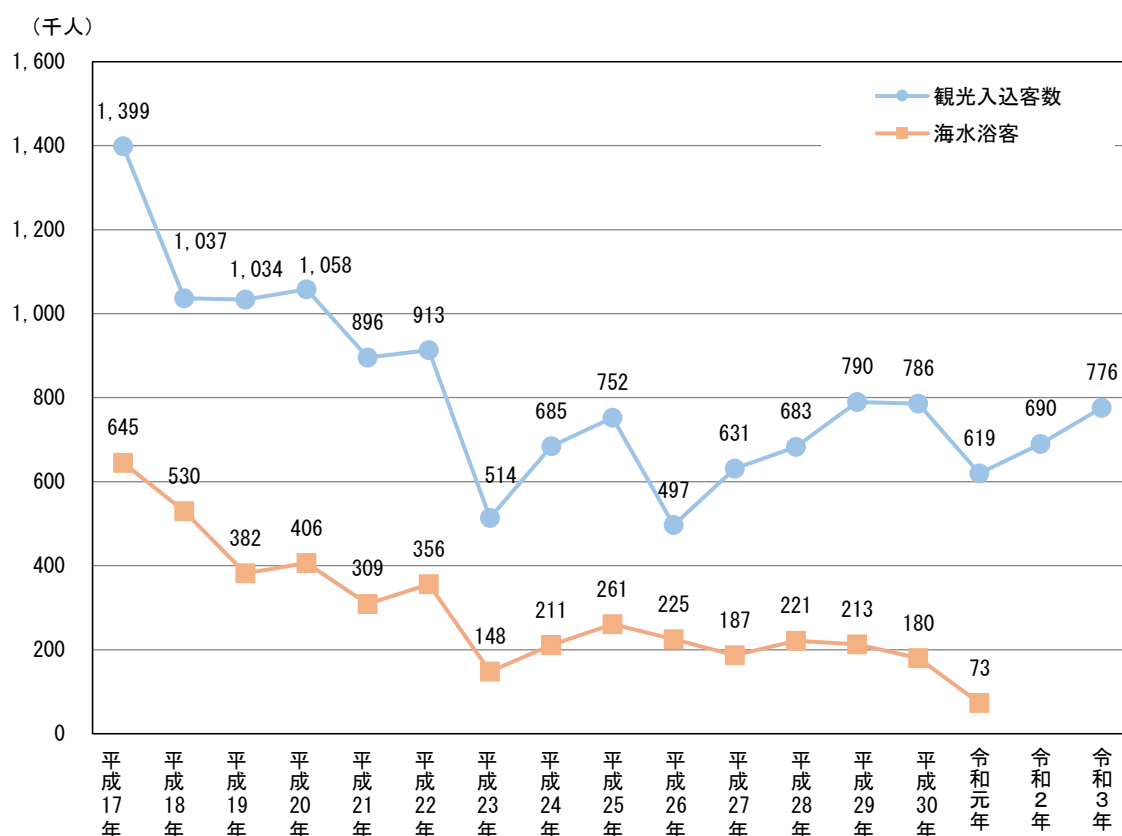
## 第2章 本町の観光の現状と課題

### 1 来訪者の特徴

#### (1) 観光入込客数の推移

本町の年間観光入込客数は、平成 17（2005）年までは約 1,399 千人でしたが、東日本大震災が発生した平成 23（2011）年には約 514 千人、令和元（2019）年には、天候不良（台風）等の影響で 619 千人まで落ち込みました。その後は回復傾向にあり、令和 3（2022）年時点で 776 千人となっています。

また、海水浴客数も同様に、平成 17（2005）年までは約 645 千人でしたが、東日本大震災が発生した平成 23（2011）年には約 148 千人、令和元（2019）年には、天候不良（台風）等の影響で 73 千人まで落ち込みました。



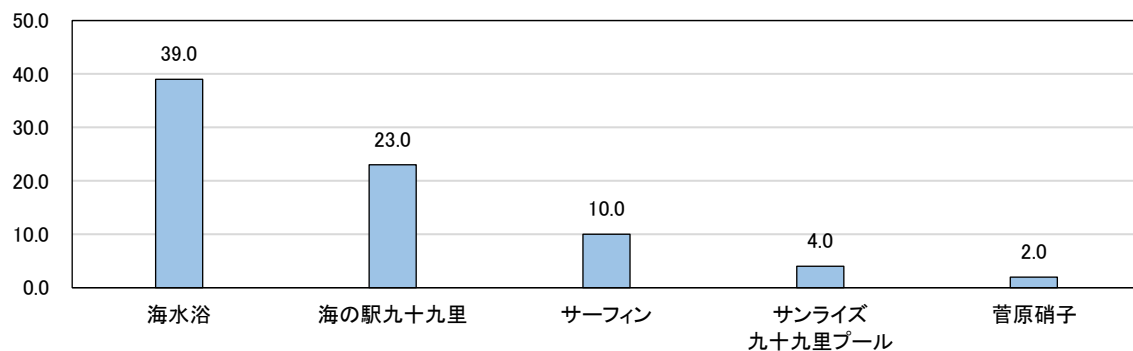
資料：「千葉県観光入込調査報告書」（令和 2 年、令和 3 年の海水浴客調査結果は非公表）

図 2-1 観光入込客数と海水浴客数の推移

## (2) 来訪者の観光目的

本町への観光客の観光目的は、「海水浴」と「海の駅九十九里」が多くなっており、両地点を合わせた観光入込客数は約 620 千人で、年間入込客数の約 8 割を占めています。

(千人/年)



注) 統計データが万人単位であったため千人以下切り捨て表記。

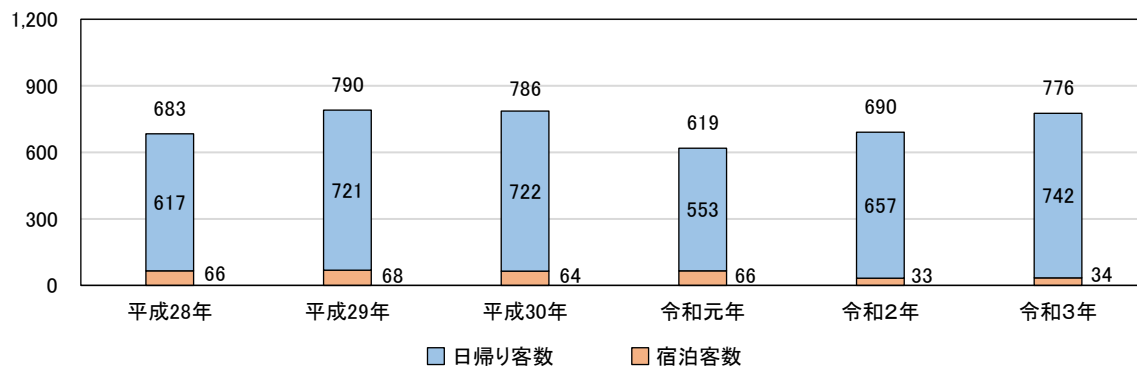
資料：「千葉県観光入込調査報告書」

図 2-2 町内観光地点別観光入込客数の比較（令和 3（2021）年）

## (3) 日帰り・宿泊客数の推移

本町は、自動車で東京都心から約 100 分、千葉市内から約 50 分ほどの距離に立地していること、また高速道路等のインフラが充実していることから観光客のほとんどが日帰り観光客であり、令和 3（2021）年の観光客に占める日帰り観光客の割合は 95%を超えています。宿泊観光客は、令和元（2019）年までは 6 万人台で推移していましたが、令和 2（2020）年以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3 万人台まで落ち込んでいます。

(千人/年)

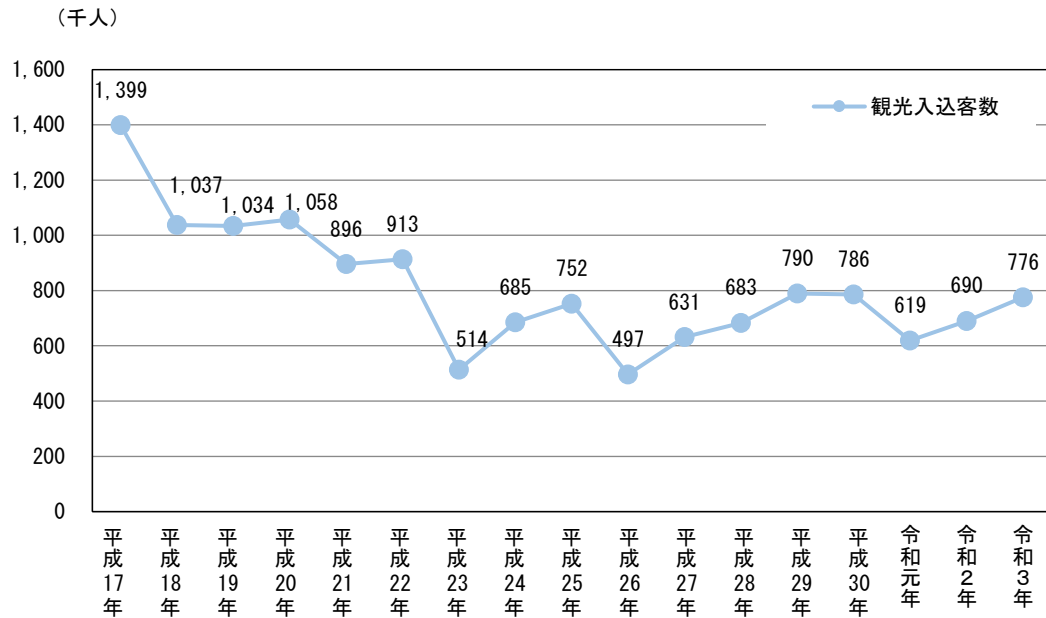


資料：「千葉県観光入込調査報告書」

図 2-3 日帰り・宿泊客数の推移

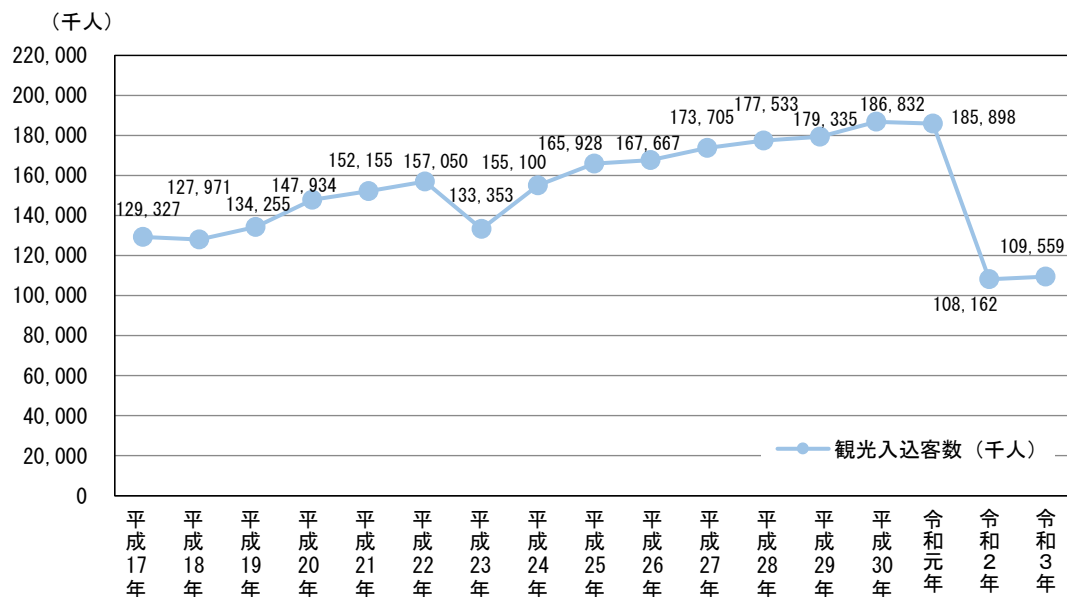
#### (4) 観光入込客数の比較

本町と千葉県の年間観光入込客数の動向の比較については、下表のとおりです。



資料：「千葉県観光入込調査報告書」

図 2-4 町の観光入込客数の推移



資料：「千葉県観光入込調査報告書」

図 2-5 県の観光入込客数の推移

## 2 地域資源

### (1) 地域資源の分布状況

片貝地区には、片貝中央海岸(片貝海水浴場)、九十九里ふるさと自然公園が整備されており、不動堂地区には、不動堂海岸(不動堂海水浴場)、九十九里ビーチタワー、真亀地区には、真亀海岸(真亀海水浴場)、国民宿舎サンライズ九十九里等の施設が整備されています。作田地区には、作田海岸(作田海水浴場)が整備されています。

また、片貝地区から作田地区にかけては飯岡九十九里自転車道の一部、片貝地区から真亀地区にかけては九十九里一宮大原自転車道の一部が、それぞれ整備されています。

各海岸からは、日の出や海岸線、星空等の雄大な眺望が臨めるほか、サーフィンを目的とした多くの観光客が訪れています。



＜海水浴場＞



＜日の出＞



＜九十九里ビーチタワー＞



＜国民宿舎サンライズ九十九里＞

資料：「九十九里町ガイドブック（九十九里町観光協会）」

本町には、古くから高村光太郎、徳富蘆花、竹久夢二などの文人墨客が多く訪れており、海岸部には、こうした文人墨客の記念碑が立てられているほか、ハマナシやハマヒルガオの海浜植物群生地が分布しています。



＜徳富蘆花文学碑＞



＜ハマナシ（左）・ハマヒルガオ（右）群生地＞

農業・農村地域には、地場の野菜直売所やいちご園、ハーブやポピー畑、ガラス工房等が分布している他、四季の彩りを感じることができる宮島池親水公園や運動施設が備わった真亀川総合公園などの都市公園、さらに、伊能忠敬が学んだといわれる妙覚寺や「九十九里浜の七福神」の八坂神社等の神社仏閣が多数分布しています。

また、古くから「いわしのまち」として知られてきた本町ですが、近年では、ハマグリの産地としても有名となり、片貝漁港傍の「おさかな新鮮大使」や「海の駅九十九里」などで、いわしやハマグリ等の新鮮な魚介類が販売されています。



＜海の駅九十九里＞



※上表には、公共施設のみを掲載し民間の観光資源は掲載していない。

図 2-6 町の主な観光資源

## (2) 年中イベント

本町の主な年間イベントは下表のとおりです。

元旦の初日の出をはじめ、海開き式、海水浴場開設、地曳き網大会、ふるさとまつり（花火打上）等、海を舞台としたイベントが多く開催されています。

また、令和5（2023）年度には、千葉県誕生150周年記念事業として、九十九里町で初めてのビーチスポーツイベントである「ビーチライフ in 九十九里町 2023」が開催され、多くの来訪者で賑わいを見せていました。

表 2-1 町の主な年間イベント

| 月   | イベント                                              |
|-----|---------------------------------------------------|
| 1月  | 元旦祭（1月1日）                                         |
| 3月  | 浜の七福神スタンプラリー（3月1日～5月6日）                           |
| 4月  | 九十九里桜フェスティバル（4月上旬）、海開き式（4月29日）                    |
| 7月  | 海水浴場開設（7月～8月）、地曳き網大会（7月下旬～8月）                     |
| 8月  | ふるさとまつり（花火打上）（8月第1土曜日）                            |
| 10月 | ビーチライフ in 九十九里町（10月下旬）<br>郷土芸能大会（3年に1度の開催）（10月下旬） |
| 11月 | 産業まつり（11月3日）                                      |

ビーチライフ in  
九十九里町 2023 の様子



資料：「町提供資料」

## (3) 食・特産品

本町は、昔から地曳き網漁によるいわし漁が栄えてきたことから、「いわしのなめろう」、「いわしのつみれ鍋」、「いわしの団子汁」、「いわしのタタキ」をはじめ、いわしを使った「刺身」、「丼」、「フライ」等の色々な料理があります。

また、海産品を使った特産品として、「いわしの胡麻漬」、「いわしの丸干し」、「いわしのみりん干し」等があります。

その他、近年では、ハマグリも名産として知られ、「焼きハマグリ」、「酒蒸し」、「吸い物」等の料理が提供されてます。

農産物では、露地野菜、施設野菜、米等が栽培されていますが、きゅうり、なすは千葉県内でも有数の生産量となっています。



<いわしのなめろう>



<いわしの刺身>



<いわしの団子汁>



<焼はまぐり>

資料：「九十九里町観光協会」

### 3 アンケート調査結果の概要

#### (1) アンケート調査の概要

本計画の策定にあたり、観光客のニーズを把握することを目的に、各海水浴場を訪れた方や町内の施設等への来訪者に対してインタビュー及びアンケート調査を実施しました。

調査の概要は以下のとおりであり、有効回答数は975票となりました。

実施時期：2023年8月4日（金）～6日（日）（3日間）

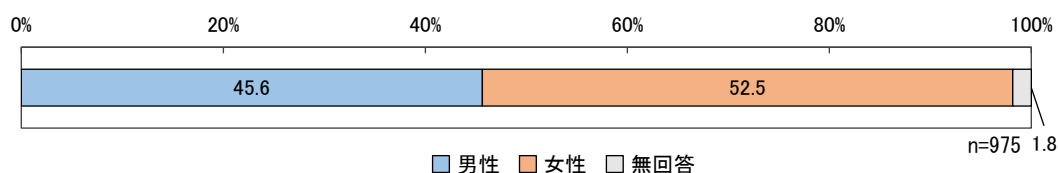
対象者：九十九里町に観光目的で来訪した方

※調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。

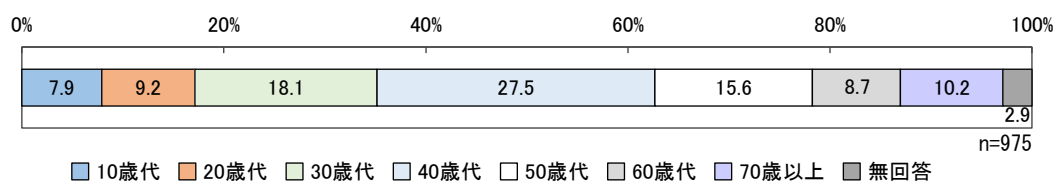
#### <回答者属性>

回答者の属性は、男性が45.6%、女性が52.5%であり、年代別では、30歳代～50歳代が多くなっています。また、同行者は「家族」が8割以上を占めています。

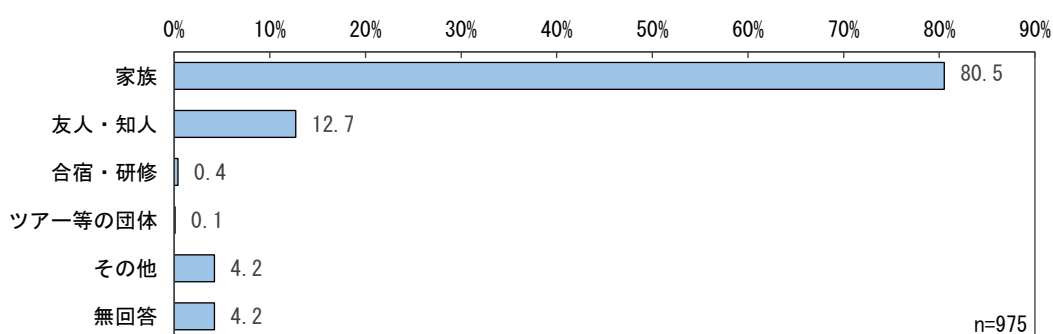
##### ●性別



##### ●年代



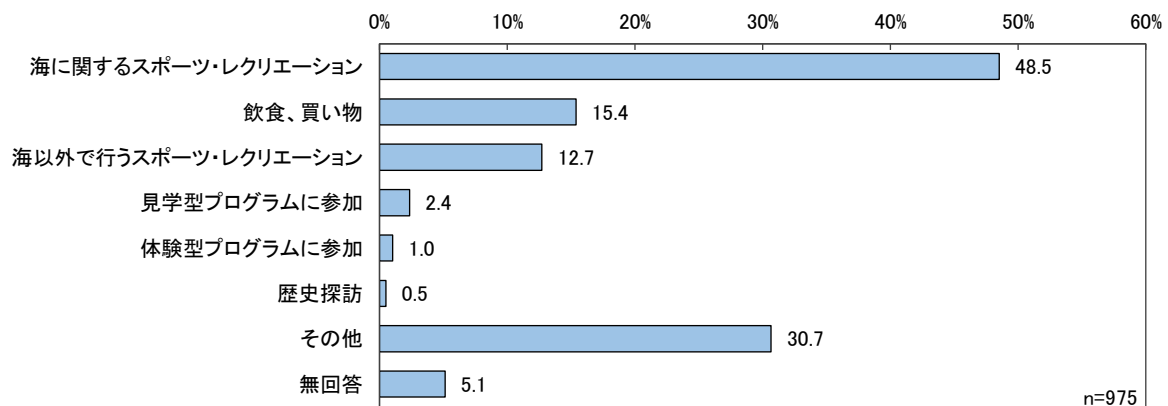
##### ●同行者（複数回答）



## (2) 調査結果の概要

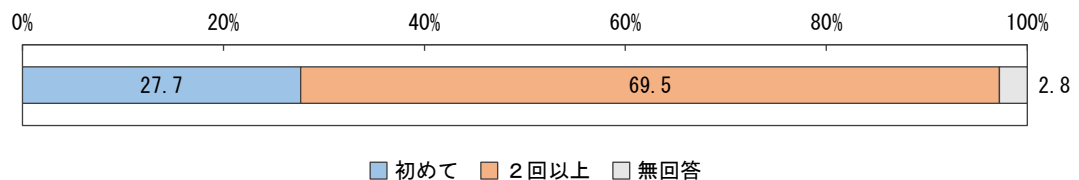
九十九里町への来訪目的については、「海に関するスポーツ・レクリエーション」が約半数と最も多く、次いで「飲食・買い物」や「海以外で行うスポーツ・レクリエーション」が挙げられています。

＜今回の来訪目的について＞（複数回答）



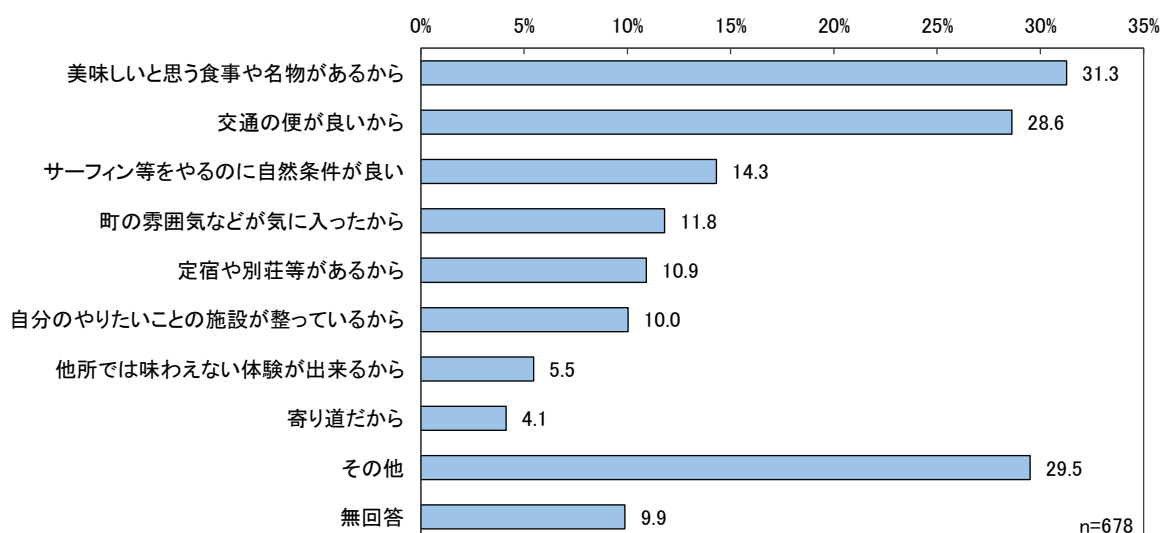
町への来訪回数では、2回以上のリピーターが約7割、初めての来訪者が約3割となっています。

＜町への来訪回数について＞



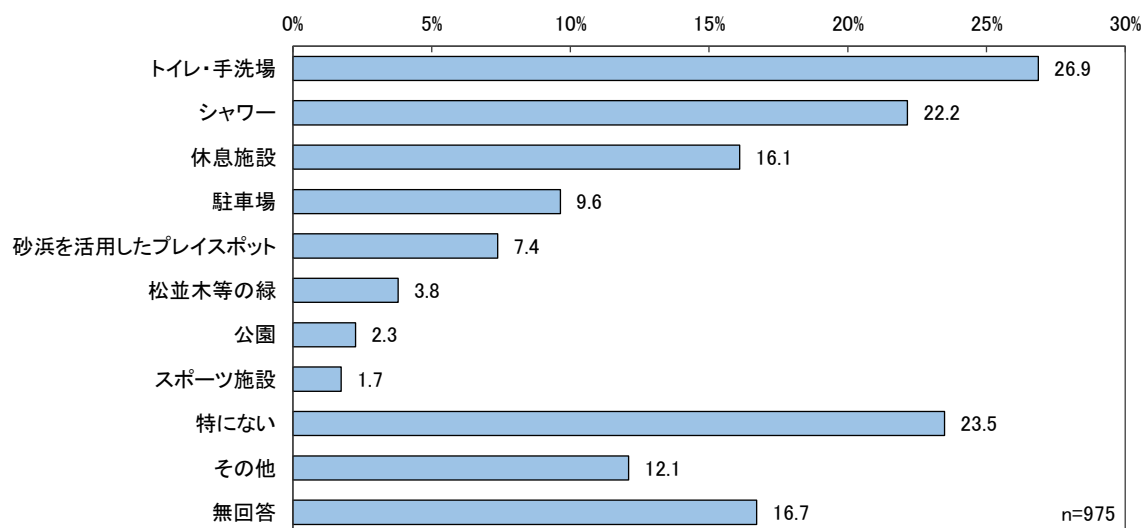
2回以上のリピーターの来訪理由では、「美味しいと思う食事や名物があるから」と「交通の便が良いから」が、約3割となっています。

＜複数回来訪する理由について＞（複数回答）

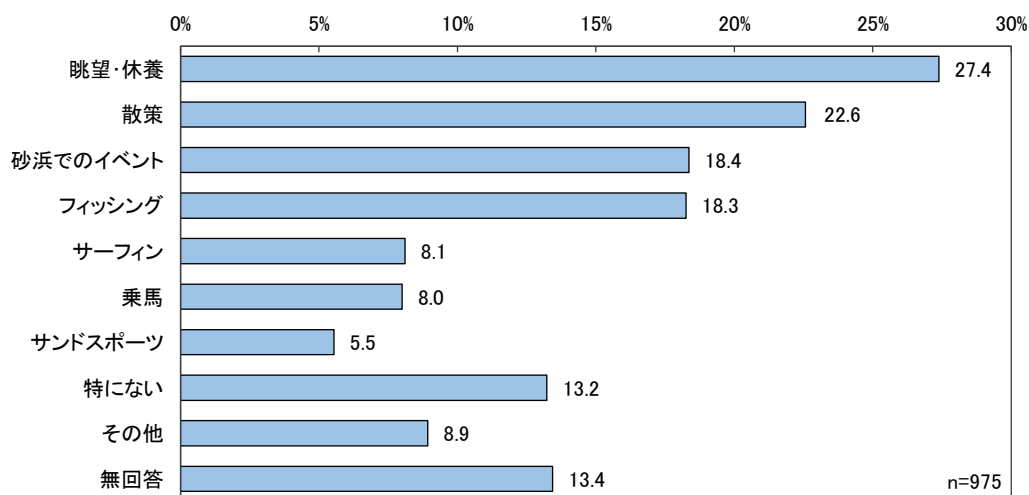


九十九里町の海に関して、不足していると感じているものでは、「トイレ・手洗場」、「シャワー」、「休息施設」が多く挙げられており、夏以外の海で行いたい観光では、「眺望・休養」、「散策」「砂浜でのイベント」等が多く挙げられています。

＜夏の海で不足していると感じるもの＞（複数回答）

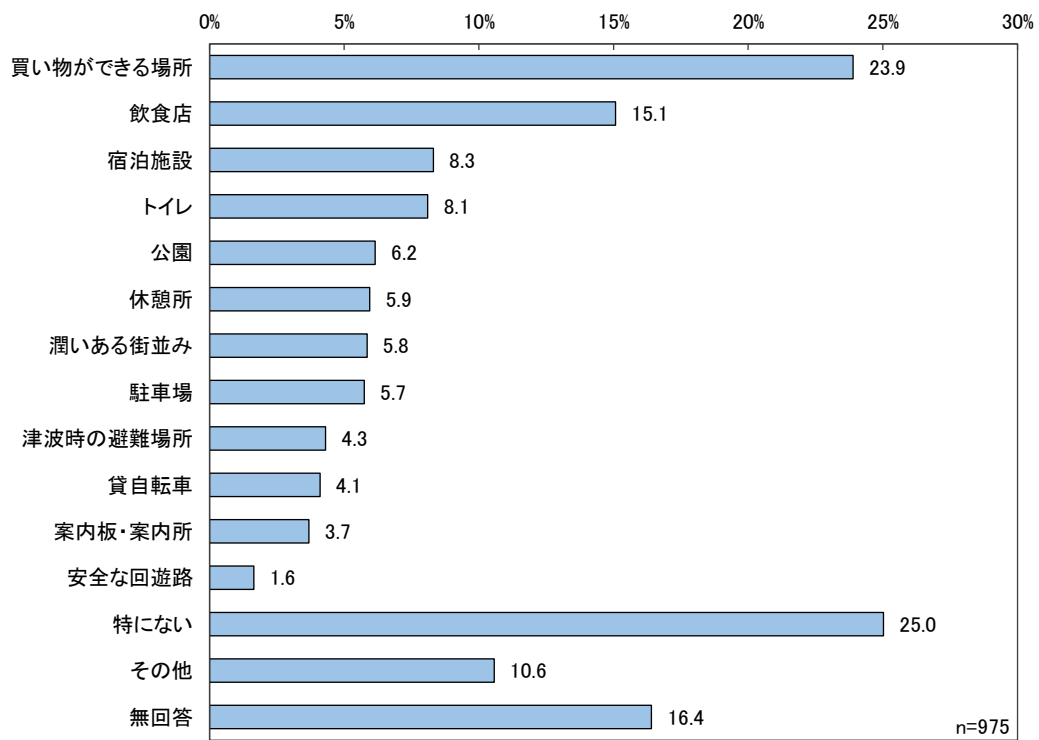


＜夏以外の海で行いたい観光について＞（複数回答）

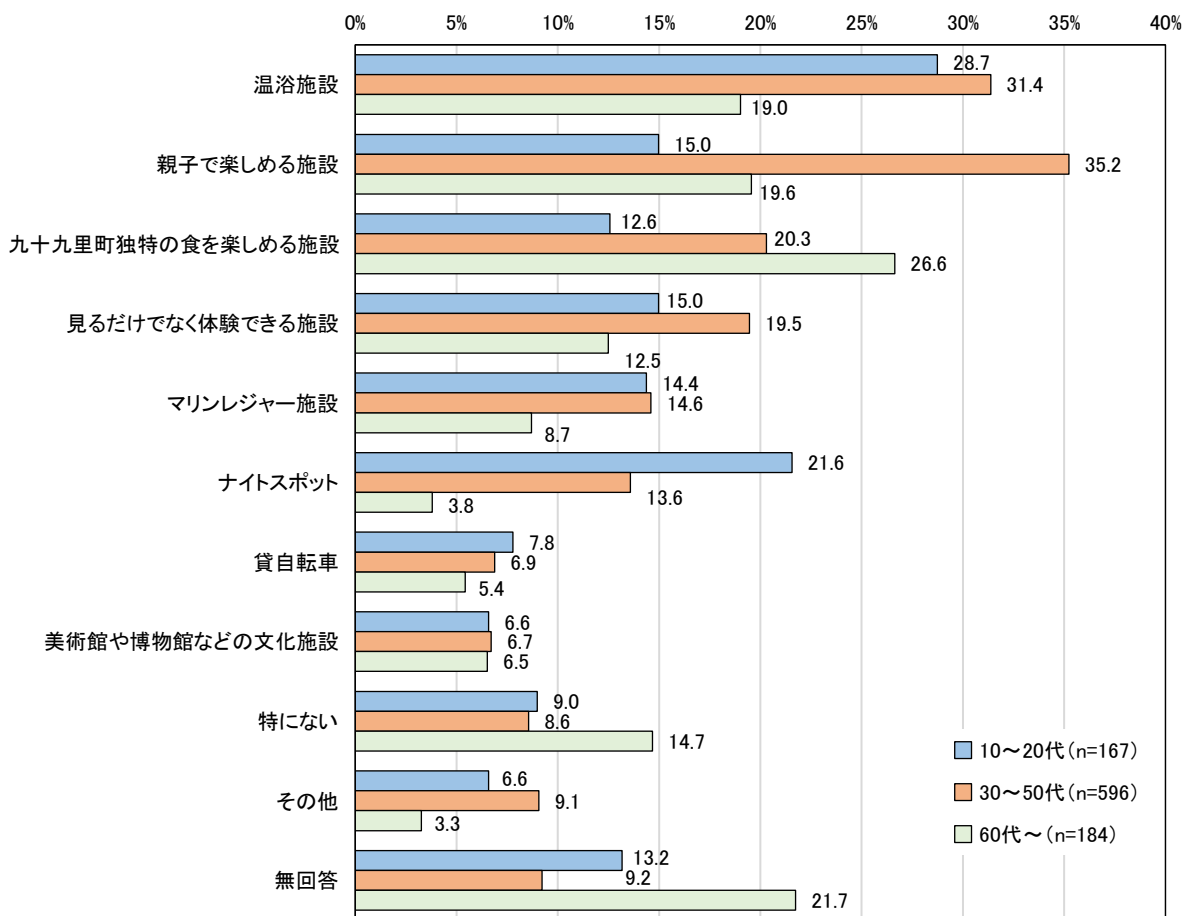


最後に、町の観光振興に向けて足りないものや整備してほしい施設について伺ったところ、足りないものでは、「買い物ができる場所」や「飲食店」が上位に挙げられており、整備してほしい施設では、全体的には、「温浴施設」や「親子で楽しめる施設」、「九十九里町独特の食を楽しむ施設」などが挙げられており、年代別では、10～20代は「温浴施設」や「ナイトスポット」、30～50代では「親子で楽しめる施設」や「温浴施設」、60代以上では「九十九里町独特の食を楽しむ施設」が、それぞれ上位に挙げられています。

<町の観光で足りないと思うもの>



<町で整備してほしい施設について>



※年齢無回答者を除く。



## 4 観光関係者・関連団体等へのヒアリング調査結果の概要

### (1) ヒアリング調査の概要

本計画の策定にあたり、本町の地域性や観光の現状を理解されている町内観光関連団体や、観光に関する専門的な知見を有している有識者から助言を頂くため、下表のとおりヒアリング調査を実施しました。

表 2-2 九十九里町の観光振興に向けたヒアリング調査概要

| 調査対象                                | 調査項目                                                  |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ・町観光協会<br>・町商工会<br>・NPO法人九十九里浜観光振興会 | ・町の観光に向けた課題<br>・夏の観光を推進していくための効果的な取組<br>・通年型観光の推進に向けて |
| ・城西国際大学観光学部                         | ・町の適した観光ビジネスについて<br>・町が取り入れるべき観光メディア戦略                |

### (2) ヒアリング調査結果の概要

ヒアリング調査結果からは本町の観光に関する問題点が挙げられました。

観光振興に関する問題点は以下のとおりです。

- ・九十九里の知名度を生かし切れていない
- ・町民との連携体制がとれていない（町民への周知が不足）
- ・庁内関係各課（局）の連携があまり図られていない
- ・観光振興に向けたビジョンが共有されていない
- ・以前より情報発信が弱く、情報のPRがうまくできていない
- ・関係団体のつながりや横の連携が弱い

夏の観光の推進に関する問題点は以下のとおりです。

- ・海水浴客向けのトイレが少ない

通年型観光の推進に関する問題点は以下のとおりです。

- ・「いわしのまち」九十九里のブランド力が低下している
- ・本町の強みである「サーフィン」を活かした観光振興ができていない
- ・海以外の資源の磨き上げができていない
- ・地域資源間のつながりが薄い
- ・飲食店が町内に点在しており、食の売り出しがうまくできていない
- ・宿泊ができない（宿泊場所が少ない）

## 5 九十九里町観光の課題

---

本町を取り巻く現況やアンケート調査、関係団体などへのヒアリング調査結果等から見えた、本町の観光振興に向けた課題は、以下のとおりです。

### <町の観光振興に向けて重要と思われること>

#### ① 情報発信力の強化

「九十九里」という全国的にも有名なブランドを最大限に活かすためには、情報発信が重要であり、テレビ・ラジオ・SNS・観光マップ等の様々な媒体を活用することはもちろんのこと、高速道路のサービスエリアや都心の鉄道駅等での観光情報誌の設置、観光大使による積極的な広報・PRを展開していくことが必要となります。また、受け手が情報を収集しやすいよう、情報の一元化を進めることも重要となります。

#### ② 核となる観光拠点の磨き上げ

片貝中央海岸の観光拠点化を進めることで集客力の向上を図るとともに、片貝中央海岸を中心とした町内地域資源との連携及び回遊性の向上を図ることで、町全体の来訪者の増加につなげていくことが必要となります。また、そのためには、既存の地域資源の磨き上げを行い、魅力ある資源づくりとPR・周知を同時に進めていくことが必要となります。

#### ③ 連携体制の強化と推進主体の構築・強化

町内（行政、観光協会、商工会、その他関連事業者、町民など）が一体となり観光ビジョンの共有を図りながら、観光振興を進める体制づくりを構築することが重要となります。また、九十九里地域間の広域連携や、国・県と連携した観光施策を進めていくことも必要となります。

### <夏の観光を推進するために必要と思われること>

#### ① 海域、海岸の環境整備等

九十九里町の海岸に訪れた観光客が快適に過ごせるよう、海岸全体の環境整備を進めていくことが必要となります。

#### ② 海水浴プラスワンの新たなコンテンツの整備

海水浴を楽しみながらバーベキューや釣り、マリンスポーツ、地曳き網などの体験ができる場所が必要となります。また、海水浴場に併設した温浴施設を設置し、海水浴以外のことも楽しめるといったような、海水浴プラスワンのコンテンツを兼ね備えることで、来訪者の満足度の向上のみならず、宿泊観光客の誘致にもつながることができます。

#### ③ リピーターの獲得

来訪客の多くはリピーターであることから、リピーターをターゲットとした観光振興を図るとともに、本町を初めて訪れた方々がまた足を運びたいと思いたくなる仕掛けづくりをする必要があります。

## ＜通年型観光の推進に向けて必要と思われること＞

### ① 夏以外の海辺の活用

砂浜の夏以外での多目的利用やオフシーズンでのイベント開催などを充実することで、夏以外にも海辺に訪れる観光客を増やすことが期待できます。また、海辺に訪れた観光客に、その他の町内観光資源に関する情報提供を行うことで、街中への誘導を行い、その他の地域資源に触れてもらい、海以外の魅力を感じてもらうことが重要となります。

### ② 地域資源の磨き上げと活用

海から街中へ観光客を誘導したとしても、そこに魅力がなければ一過性のものとして終わってしまうことから、既存の地域資源を魅力ある資源に磨き上げていく必要があります。そのためには、行政・町民・事業者の機運の醸成と協力体制を構築していく必要があります。

また、来訪者により長く滞在したいと思ってもらうために、地域資源の活用を図り、宿泊への意欲を喚起させる必要があります。

### ③ サーフィンの通年スポーツ化の推進

サーフィン＝夏という固定概念を取り外すための周知・PRを行うとともに、関係団体の協力のもと、オフシーズンでの「サーフィン教室」を開催するなど、サーフィンを活用し、オフシーズンでの来訪者を獲得していくことが考えられます。

### ④ 夏以外に核となる新たなコンテンツの整備

眺望を楽しめる施設の創設、親子をターゲットにした体験型観光の推進や音楽フェスティバルの定期開催など、夏以外で集客を図る新たなコンテンツを整備することが重要となります。

### ⑤ 観光まちづくりの推進

観光客に感銘を与える美しい街並景観を整備することで、他では体験できない独特な雰囲気が味わえる空間づくりを進めるなど、特別感や異日常感を演出していくことが必要となります。

併せて、町内に点在する地域資源間のつなぎ合わせや来訪者の利便性の向上に向けた交通インフラ整備と、街中回遊性の向上に向けたサインの整備などを進めていくことが必要となります。

### ⑥ 食の魅力の向上

来訪者の目的となり得るような本町の食材を堪能できる料理体験や新たな食の開発に力を入れ、食の魅力を向上させる必要があります。さらに、町内に点在する飲食店同士の協力体制を強化する必要があります。

また、いわしをはじめとした特産品の活用やブランド力の向上を図ることで、本町の食が持つ魅力を多くの人に知ってもらうことが重要となります。

## 第3章 計画の基本的考え方

### 1 本町が目指す観光ビジョン

本町では、夏の観光リゾート地として多くの観光客で賑わう一方、その他のシーズンでは観光客が少ないといった課題があり、今後の観光振興にあたっては、こうした課題を克服していく必要があります。また、夏に訪れた観光客に対して、これまで以上の満足感・充実感を提供することで、リピート率の向上につなげるとともにリピーターによる本町の観光情報の拡散につなげていくことも効果的になります。

これらを念頭に本町が目指す観光ビジョンは以下のとおりとします。

#### 《九十九里町観光ビジョン》

### 片貝中央海岸を核とした集客力の向上と 観光客の街中への誘導

本町の海岸部は観光の要であり、その中でも片貝中央海岸は、最も多くの海水浴客を集客し、夏のイベント会場としても利用されています。

まずは、この片貝中央海岸を観光振興に向けた重要拠点と位置付け、誰もが何度でも訪れてみたい空間となるよう、集中的な環境整備を進めていきます。そして、片貝中央海岸を目的に訪れた多くの人が、混雑を避け、よりゆったりとした時間を過ごせる場所として、不動堂海岸、真亀海岸への誘導を図るとともに、サーフィン目的の来訪者については、作田海岸への誘導を図り分散させることで、混雑のない快適な空間の提供を図っていきます。

また、海水浴だけでなく、既存資源や夏の新たなコンテンツと連携することで、海プラスワンの着地型観光を推進し、来訪者の満足度の向上と滞在時間の延伸による宿泊客の増加を目指していきます。

夏以外のシーズンについても、片貝中央海岸を核として、様々なイベントや多目的な利用を促進することで来訪者の集客を図ります。さらに片貝中央海岸においては、町内その他の観光資源に関する情報のPRや、クーポン券の配付などのインセンティブを検討することで、片貝中央海岸から街中へと来訪者を誘導します。このような連携を図ることで、片貝中央海岸のブランド化を図るとともに、オールシーズンを通じて、本町を訪れ、そして満足して頂ける来訪者の増加を目指していきます。

## 2 観光ビジョンの達成に向けた基本目標

本計画では、観光ビジョンを達成するために、以下の4つの基本目標を設定します。

### 《基本目標1：夏の来訪者の満足度の向上》

片貝中央海岸の環境整備をはじめ、本町の夏を満喫してもらうための様々な仕掛けを行うことで、「九十九里町に来て良かった」、「再び訪れたい」と思ってもらえるリピーター層を増やしていくことを目指します。

### 《基本目標2：通年型観光の土台づくり》

夏の観光リゾート地である本町において、通年型観光を推進していくためには、中長期の戦略を立て、計画的・段階的に取り組んでいく必要があります。

本計画は、改めて通年型観光を推進するための初動期であることから、まずは、本計画を通じて、通年型観光の推進に向けた土台づくりを進めていきます。

### 《基本目標3：観光ポテンシャルの磨き上げ》

繰り返し本町に訪訪していただけるような観光地としての質を向上させるため、観光サービスの提供者のおもてなし力の向上を図るとともに、地場産品や郷土料理のブランド化を図り、観光産業の磨き上げをしていきます。

### 《基本目標4：テクノロジーを活用した情報発信の向上》

通信環境が急速に高度化し、SNS等による観光情報の取得形態が容易となっているため、SNSを通じた情報収集の重要性が高まっています。このことから、更なる観光情報の発信を強化する必要があります。



### 3 ターゲット戦略

観光客の増加を図るためには、ターゲットを明確にした上で、効果的かつ戦略的な施策を展開していくことが重要となります。

本計画では、リピーターによる本町の観光情報の拡散も念頭に置いていることから、原則、現在のリピーターをターゲットとして設定します。

ターゲット層は、若者、家族連れ、高所得者、高齢者及びインバウンドなどが考えられますが、本町の来訪者特性として、30～40代までの家族連れが多いことから、こうした家族層を第1ターゲットとするとともに、SNS等を活用した情報の拡散が期待される10～20代の若者層を第2ターゲットとします。

高所得者、高齢者及びインバウンドに関しては、本計画期間が5年間と短いことから、中長期的なターゲット層として位置付けます。

#### STEP・1



リピーター、家族連れ、若者

#### 本ビジョン

海水浴を楽しみ、「また行きたい」と思ってもらえるような充実した環境整備を行うことにより家族連れ、若者の更なる増加を図ります。

また、海水浴客は殆どが日帰りですが、本町の多様な地域資源を活用して、海水浴以外の楽しみも提供することで、長時間滞在や宿泊したいと思っただけの観光客の取り込みを図ります。



将来的には……

#### STEP・2



高所得者、高齢者

高所得者、高齢者：片貝地区を回遊しやすい街に整備・充実することにより、リピーターや家族連れとともに、高所得者や高齢者の来訪を誘導します。

#### STEP・3



インバウンド客

インバウンド客：観光資源の掘り起こしと美しい街並みや景観づくりを進めることにより、日本の地方の街巡りをしたり、文化を体験したいと思っている外国人の来訪を促します。

## 4 基本施策

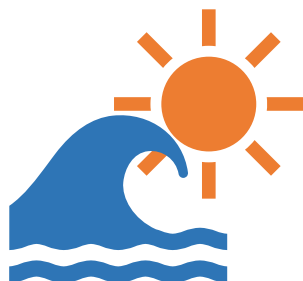
本計画では、4つの基本目標を達成するために、以下の4つの基本施策を展開します。

### （１）夏の海を活かした観光振興

本町には、海水浴やサーフィンを目的とした夏の観光客が毎年多数訪れていますが、こうした観光客にとって、九十九里町の海岸では、自然の雄大さと美しさに感動していただけるような、海岸のイメージアップや受け入れ態勢の充実、美しい景観づくりを推進します。

また、海岸の清掃等の美化を図るとともに、海岸固有の自然環境の保全や活用を図ります。

さらに、海プラスワンの着地型観光を推進するため、関係機関や関係団体と連携し、新たなコンテンツの企画・開発を行います。



### （２）食を活かした観光の振興

本町は、国内有数のいわしの漁獲高を誇り、ハマグリ産地でもあります。

また、温暖な気候を生かし、きゅうり、とまと、なす、いちごなどの農産物が生産され、その一部は摘み取り体験などに供されています。

こうした魚介類や農産物を用いた「この土地の食」は様々な観光・レジャーのシーンを支えており、同時にそれぞれのシーンにふさわしい食の提供が求められます。

こうした食に関しては、アンケート調査からも、多くの来訪者の関心が高く、本町の観光振興を支える重要な資源として、更なる魅力づくりと普及啓発に努めていきます。



### （３）通年型観光を目指した新たな展開

片貝中央海岸の夏以外の利用を促進することで集客力を高めるとともに、来訪者を街中に誘導することで、町内その他の地域資源に触れあい、知ってもらう機会の増加を図ります。

そのため、夏以外の春・秋・冬と一年を通して、楽しんでもらえる既存資源の磨き上げや、夏以外に利用できる新たなコンテンツを開発するとともに、これら各地域資源間の回遊性を高めることで、魅力的ある着地型観光を推進します。

さらに、サーフィンが年間を通じてできるスポーツであることの周知・PRを行うとともに、関係団体等と連携し、オフシーズンでの「子ども向けサーフィン教室」を開催するなど、サーフィンを活用した来訪者の獲得を目指します。

その他、観光客に感銘を与える美しい街並景観を整備することで、他では体験できない独特な雰囲気が味わえる空間づくりを進めるとともに、来訪者の利便性の向上に向けた交通インフラの整備と街中回遊性の向上に向けたサインの充実などを進めていきます。



### （４）観光推進体制の強化

「九十九里」という全国的にも有名な地名を最大限に活かすために、情報発信力の強化に取り組んでいきます。

また、攻めの姿勢を展開していくために、行政による取組の強化はもちろんのこと、町内観光関係団体や事業者、さらには町民との協力が必要不可欠であることから、町内（行政、観光協会、商工会、その他関連事業者、町民など）が一体となり、オール九十九里町として観光振興を進める体制づくりについて検討します。

さらに、九十九里地域間の広域連携や、国・県と連携した観光施策を展開するなど、様々な手段を活用することで、町の更なる観光振興を進めていきます。



## 5 施策の体系

本計画の施策の体系は、以下のとおりです。

| ビジョン                         | 基本目標               | 基本施策               | 施策                                                                                                                         |
|------------------------------|--------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 片貝中央海岸を核とした集客力の向上と観光客の街中への誘導 | 夏の来訪者の満足度の向上       | 1. 夏の海を活かした観光振興    | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 受入れ環境の推進</li> <li>2. 夏の新たなコンテンツの企画・開発</li> </ul>                                 |
|                              | 通年型観光の土台づくり        | 2. 食を活かした観光の振興     | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 九十九里いわしのブランディングの推進</li> <li>2. ガストロノミーツーリズムの推進</li> </ul>                        |
|                              | 観光ポテンシャルの磨き上げ      | 3. 通年型観光を目指した新たな展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 通年型観光を目指すための新たなコンテンツの企画・開発</li> <li>2. 地域資源の活用</li> <li>3. 景観まちづくりの推進</li> </ul> |
|                              | テクノロジーを活用した情報発信の向上 | 4. 観光推進体制の強化       | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 情報発信・PR</li> <li>2. 連携体制の強化</li> </ul>                                           |

## 第4章 施策の展開

### 1 夏の海を活かした観光振興

#### (1) 受入れ環境の推進

##### ① 海水浴場の環境整備

本町には、毎年、海水浴やサーフィンを目的とした多くの観光客が訪れています。

観光振興を進めていく上では、こうした夏の観光客をリピーターとして獲得できる観光地を目指していくことが重要となります。

そのため、貴重な地域資源である海岸を有効活用し、海水浴やサーフィンを目的に訪れた観光客が、より快適な時間を過ごせるよう、海岸施設やその周辺部の環境整備を進めるとともに、来訪者の心に残る魅力的な景観づくりを進めていきます。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 海水浴場のトイレ等利便施設の環境整備
- ◆ 町営駐車場（各海水浴場）の利便性の向上
- ◆ 千葉県立九十九里自然公園を活用した賑わいづくり
- ◆ 九十九里ビーチタワーの改修
- ◆ 新たな眺望施設の整備検討
- ◆ 海岸部景観づくりの検討

##### ② 海水浴場の美化・清掃

海岸への漂着物やごみ等が観光客の満足度の妨げにならないよう、定期的な清掃による環境美化に努めます。

また、イベントや学校教育を通じた環境教育を推進するとともに、町ぐるみで海水浴場の美化・保全を推進するため、町民への意識の醸成を図ります。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 海水浴場の定期的な清掃・美化
- ◆ イベントを活用した美化・環境教育の推進
- ◆ 学校教育を通じた環境教育の推進
- ◆ 海岸の美化・保全に対する町民への意識の醸成

### ③ 自然環境の維持・保全

海岸部には、海浜群生植物のハマナシやハマヒルガオなどが自生しています。

こうした海岸部の植生を維持・保全することで、緑豊かな自然景観を演出し、来訪者の満足度の向上につなげていきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ ハマナシ、ハマヒルガオ群落の保全

| 取組内容         | 実施年度 |     |     |     |     |
|--------------|------|-----|-----|-----|-----|
|              | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R10 |
| ① 海水浴場の環境整備  |      |     |     |     |     |
| ② 海水浴場の美化・清掃 |      |     |     |     |     |
| ③ 自然環境の維持・保全 |      |     |     |     |     |



＜ハマナシ＞

資料：九十九里町ホームページ

## (2) 夏の新たなコンテンツの企画・開発

## ① 海プラスワンの新たなコンテンツの企画・開発

夏の来訪者の満足度の向上と滞在時間の延伸を図るため、家族連れや若者をターゲットとした夏の新たなレジャーや夏の海を舞台とした新たなイベントなど、体験型観光を中心とした、海水浴プラスワンとなる新たなコンテンツの企画・開発を進めていきます。

### 【具体的な取組内容】

- ◆ 海水浴プラスワンの新たなコンテンツに対するニーズ・シーズの把握・分析
- ◆ 海水浴プラスワンの新たな商品開発（※事業スキームの構築含む）

※ニーズとは、観光客の要望のことであり、シーズとは、ニーズを満たすために提供できる技術や資源のことです。

＜想定される取組（例）＞

【夏の新たなレジャー】

- バーベキュー施設      ○オートキャンプ場      ○グランピング施設  
○プール      ○親子で楽しめる公園      ○温浴施設  
○子ども・若者向けの体験型施設      等

【夏の海を舞台とした新たなイベント】

- 子ども向けサーフィン・ボディーボード教室    ○グルメリバント  
○ビーチスポーツ大会    ○音楽フェスティバル    ○ダンスイベント  
○子ども向け学習・ものづくり・見学体験ツアー  
○海の駅九十九里を拠点とした各種イベント
- 等

| 取組内容                    | 実施年度 |     |     |     |      |
|-------------------------|------|-----|-----|-----|------|
|                         | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| ① 海プラスワンの新たなコンテンツの企画・開発 |      |     |     |     |      |

## 2 食を活かした観光の振興

### (1) 九十九里いわしのブランディングの推進

#### ① 町民意識の醸成

本町が「いわしのまち」であることを広くPRするためには、まず、町民の「いわしのまち九十九里」に対する意識の醸成を図っていくことが必要です。

そのため、町民に対して、いわしに関する様々な情報発信を強化するとともに、町民や町内事業者と一体となった、多彩ないわしメニューの開発を進めていきます。

また、町内の子どもたちには、関係機関等の協力のもと、学校給食でいわしを使用したおかずの提供機会を増やすことや、学校行事として、子ども向けいわしクッキング教室を開催するなど、いわしに触れる機会の創出を図ります。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 「いわしの町九十九里」の町民への周知・強化
- ◆ いわしを使った新たな商品開発
- ◆ 学校教育を通じた「いわしの町九十九里」の浸透

#### ② いわしのPR・販売

本町が「“元祖”いわしの町」であることを広く浸透するために、様々な媒体や手法を用いた情報発信を強化するとともに、民間事業者等と連携した効果的な販売を促進していきます。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 「いわしの町九十九里」の町外への情報発信・PRの強化

##### <想定される取組（例）>

- 食をテーマとした町外でのイベントへの参加
- メディアを活用したいわしの販売・PR
- ふるさと納税返礼品としての積極的な活用・PR 等

- ◆ 食品メーカーや小売店と連携したいわし商品の販売

##### <想定される取組（例）>

- 新たに「いわしのお菓子」を開発し、コンビニエンスストア等と提携した商品販売 等

| 取組内容        | 実施年度 |     |     |     |     |
|-------------|------|-----|-----|-----|-----|
|             | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R10 |
| ① 町民意識の醸成   |      |     |     |     |     |
| ② いわしのPR・販売 |      |     |     |     |     |



<いわしのつみれ汁>



<いわしのごまフライ>



<いわしのみりん干し天ぷら>



<いわしの蒲焼き>

<いわしを使った学校給食>

資料：九十九里町ホームページ

## (2) ガストロノミーツーリズムの推進

ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候風土が生んだ食材や習慣、伝統、歴史などによって生まれた食や食文化に触れることを目的とした旅行のことを言い、欧米を中心に普及したスタイルですが、近年、日本でも注目が集まっています。

本町には、「きゅうり」「なす」、「いわし」のみならず、その他にも片貝漁港に水揚げされる様々な海の幸があることから、こうした本町ならではの食を活用したガストロノミーツーリズムを推進していきます。

### ① 推進体制の整備

ガストロノミーツーリズムを推進するため、町内関係事業者との協力・連携体制の構築を図ります。

また、ガストロノミーツーリズムを推進するためのコンテンツを増やすため、いわし以外の地場食材を活用した新たな郷土料理の開発・ブランド化を進めます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 町内事業者と連携した推進体制の構築
- ◆ 食に関する町内の生産、販売事業者と連携した新たな商品開発
- ◆ ガストロノミーツーリズムを活用した観光交流イベントの実施

### ② 食をテーマとした着地型観光の推進

ガストロノミーツーリズムを推進するため、食をテーマとした新たな企画や体験プログラムを検討していきます。

また、本町の地場食材を使って食を提供している各店舗を、本町の食を楽しめる「食の観光スポット」と位置付け、町内外への情報発信を強化するとともに、海水浴やイベント等で本町に訪れた観光客を「食の観光スポット」に誘導するため、観光ガイドやお食事処が記載されたグルメマップ等を配布します。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 食をテーマとした体験型観光の企画・開発
- ◆ 地場食材を使ったフードフェスティバル等の開催
- ◆ 観光拠点等における町内グルメマップの設置・配付

| 取組内容               | 実施年度 |     |     |     |     |
|--------------------|------|-----|-----|-----|-----|
|                    | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R10 |
| ① 推進体制の整備          |      |     |     |     |     |
| ② 食をテーマとした着地型観光の推進 |      |     |     |     |     |

### 3 通年型観光を目指した新たな展開

#### (1) 通年型観光を目指すための新たなコンテンツの企画・開発

##### ① 海辺を活用した新たなコンテンツの企画・開発

片貝中央海岸をはじめとした海岸部は、本町にとって貴重な観光資源であり、夏はもちろんのこと、夏以外でも活用を図ることで、集客力を高めることが期待されています。

そのため、家族連れや若者を主なターゲットとして、体験型観光を中心に、海辺を活用した新たな商品開発を進めていきます。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 夏以外の海辺利用のニーズとシーズの把握、分析
- ◆ 海辺を活用した新たな商品開発（※事業スキームの構築含む）

##### <想定される取組（例）>

- バーベキュー施設      ○オートキャンプ場      ○グランピング施設
- ビーチスポーツ      ○音楽フェスティバル      ○ダンスイベント
- グルメイベント      ○砂の彫刻展      ○プロジェクションマッピング
- 子どもの星座観察ツアー
- 浜辺で作って食べるつみれ鍋・だんご汁体験ツアー
- 九十九里サイクリングロードを活用したロードレースの開催      等

##### ② 夏以外の新たなコンテンツの企画・開発

通年型観光を目指す上では、夏以外でも本町を訪れてみたいと思う魅力的な資源を開発・整備することも重要となります。

そのため、家族連れや若者を主なターゲットとして、体験型観光を中心に、夏以外に本町を訪れる動機となるような新たなコンテンツの企画・開発を進めていきます。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 夏以外の観光に対するニーズとシーズの把握、分析
- ◆ 夏以外に訪れる動機となる新たな商品開発（※事業スキームの構築含む）

＜想定される取組（例）＞ ※海辺の活用含まず。

- 温浴施設等
  - 古民家や空き家を使った滞在型農業体験、農園付き民家の貸出
  - 部活動などの合宿地として活用できる施設等の整備
  - 美術館、博物館等の整備
  - 新たな眺望地点、景観スポットの開発
- 等

| 取組内容                    | 実施年度 |     |     |     |      |
|-------------------------|------|-----|-----|-----|------|
|                         | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| ① 海辺を活用した新たなコンテンツの企画・開発 |      |     |     |     |      |
| ② 夏以外の新たなコンテンツの企画・開発    |      |     |     |     |      |



## (2) 地域資源の活用

### ① 既存資源の磨き上げ

本町には、海や食以外にも歴史・文化、自然・産業に関わる様々な地域資源が存在します。通年型観光を目指すためには、夏の海だけでなく、町内にある様々な地域資源を活用し、海以外の地域資源を目当てに訪れる観光客を増やしていくことも重要となります。

そのため、既存資源の磨き上げを行うとともに、町内事業者がそれぞれ実施している体験型観光との連携を図り、観光地としての更なる魅力の創出に努めていきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 真亀川総合公園、宮島池親水公園をはじめとした既存公園・緑地の計画的な維持管理、観光資源としての活用
- ◆ 歴史・文化スポット及びその周辺の環境整備と情報発信の強化
- ◆ 町内事業者と連携した体験型観光の推進

#### ＜町内事業者と連携した体験型観光（例）＞

- 遊漁船による釣り体験    ○地曳き網体験    ○ガラス工芸体験
- いちごをはじめとする摘み取り体験    ○海釣り体験    等



＜地曳き網体験＞

資料：九十九里町観光協会ホームページ

## ② 地域資源の連携強化・回遊性の向上

通年型観光を推進するためには、来訪者が快適かつスムーズに移動ができ、より多くの観光地を訪れていただくことで、満足度の向上と滞在時間の延伸を図っていくことが必要となります。また、ICTを活用し、来訪先の受入れ環境を整備することで、より快適に過ごしていただくことが重要となります。

そのため、地域資源間の道路の整備や計画的な維持・管理に努めるとともに、街中回遊性を高めるための公共サインの充実を図ります。また、公衆無線LAN環境の整備やキャッシュレス決済の普及を図ることで、来訪先の受入れ環境の整備を図ります。

さらに、車以外での移動による回遊性を高めるため、シェアサイクルの導入に向けた実証実験を検討していきます。

### 【具体的な取組内容】

- ◆ 地域資源間の道路の整備、計画的な維持・管理
- ◆ 公共サインの整備・充実
- ◆ 公共無線LAN環境の整備
- ◆ キャッシュレス決済の普及
- ◆ シェアサイクルの導入に向けた実証実験の実施

| 取組内容               | 実施年度 |     |     |     |      |
|--------------------|------|-----|-----|-----|------|
|                    | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| ① 既存資源の磨き上げ        |      |     |     |     |      |
| ② 地域資源の連携強化・回遊性の向上 |      |     |     |     |      |



### (3) 景観まちづくりの推進

#### ① 景観形成に向けた取組の推進

海岸や街中の統一された美しい景観は、訪れる人々に感銘を与え、再度訪れてみたい、長期滞在してみたいという気持ちを抱かせる一因となります。

しかしながら、そうした街にするためには、規律性を持った街並や色彩に配慮した景観づくりを進めていく必要があります、時間をかけて、街並を誘導するとともに、景観に関する町民や事業者の意識の醸成を図っていくことが必要となります。

来訪者に感銘を与えるような景観づくりを進めるため、本町の特性に合わせた景観計画を策定するとともに、町民・事業者への啓発活動を推進していきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 景観計画の策定、景観条例の制定に向けた調査・研究
- ◆ 町民、事業者への景観づくりに向けた啓発活動の実施

| 取組内容            | 実施年度 |     |     |     |     |
|-----------------|------|-----|-----|-----|-----|
|                 | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R10 |
| ① 景観形成に向けた取組の推進 |      |     |     |     |     |



<街並>

資料：九十九里町観光協会ホームページ

## 4 観光推進体制の強化

### (1) 情報発信・PR

#### ① 様々な手法を用いた情報発信の強化

SNS等による観光情報の入手が容易となっており、SNS等を通じた情報発信の重要性が高まっています。そのためにも、更なるSNS等を活用した多様な観光情報の発信に努めていきます。

また、テレビやラジオなどのメディアを通じた情報発信は、本町に関心のある方のみならず、広く多くの方に本町を知ってもらうための効果的な手段であることから、メディアへのPR活動を図り、情報番組等の誘致につなげていきます。

さらに、高速道路のサービスエリアや都心の鉄道駅など、人が多く集まる場所において、ポスターや情報誌を配置するとともに、来訪した方が本町の魅力や新たな地域資源に関する情報を入手できるよう、町内の各施設拠点においてエリアマップ等を配架するなど、情報発信力の強化を図ります。

その他、大学や高校の部活動の合宿や、都心部の高校や大学へのPR活動を推進する方策について検討を行います。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ SNS等を活用した情報発信の強化
- ◆ メディアを活用した情報発信の強化
- ◆ 町内外の集客施設における情報発信の強化
- ◆ 合宿誘致を目指したPR活動の推進

#### ② フィルムコミッションの推進

町内の海岸は、テレビやCM等のロケーション場所として人気のスポットであり、映画やドラマで撮影された場所は、観光客が度々訪れています。

このような観光資源（ロケ地）を含め、町内の海岸、観光施設、集落地、自然・緑地等を撮影素材として活用できる良好なロケ地スポットを発掘・創出するとともに、千葉県フィルムコミッションとの連携により、映画やドラマ撮影などに対応した情報提供、受入れ体制（サポート体制）の整備・充実を図ります。

##### 【具体的な取組内容】

- ◆ 千葉県フィルムコミッションとの連携
- ◆ 町内の良好なロケ地スポットの発掘・創出
- ◆ 受入れ体制（サポート体制）の整備・充実

### ③ 本町ゆかりの著名人等と連携したPR活動

本町在住の著名人や来訪者として定期的に本町を訪れてくれている著名人やユーチューバーの方などに対して、本町の観光大使や観光アンバサダーとして活躍して頂けるよう働きかけるとともに、インフルエンサーと連携した情報発信力の強化に努めていきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 町観光大使、観光アンバサダーの任命
- ◆ インフルエンサーとの連携方策の検討

| 取組内容                  | 実施年度 |     |     |     |      |
|-----------------------|------|-----|-----|-----|------|
|                       | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| ① 様々な手法を用いた情報発信の強化    |      |     |     |     |      |
| ② フィルムコミッションの推進       |      |     |     |     |      |
| ③ 本町ゆかりの著名人等と連携したPR活動 |      |     |     |     |      |



## (2) 連携体制の強化

### ① 多様な主体間による連携の強化

観光の振興に向けては、既にある「九十九里」というブランドに頼るだけではなく、観光ビジョンの実現に向けて、町が一丸となって取り組んでいくことが重要となります。

そのため、町内（行政、観光協会、商工会、その他関連事業者、町民など）での連携を強化し、オール九十九里町で観光振興を推進する体制づくりを構築していきます。

また、観光振興を図るためには、ソフト・ハード両面での整備が必要となり、資金面の確保も重要となります。そのため、国や県等と連携した観光施策を推進するとともに、必要に応じて、民間活力の導入によるコストの低減とサービスの高付加価値化につなげていきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ オール九十九里町による推進体制の構築
- ◆ 国・県、大学等と連携した観光施策の推進
- ◆ 民間活力の導入検討

### ② 広域連携の推進

海匝、山武、長生地域の市町村は、これまでも海や漁業、農業、そして九十九里の環境や歴史を共有しながら、九十九里地域観光としての取組と情報発信に努めてきました。

今後も、九十九里地域に多くの観光客を呼び込むため、近隣市町と連携した観光施策を推進するとともに、九十九里地域に訪れた観光客に本町が選ばれるよう、本町ならではの地域資源の磨き上げと情報発信の強化に努めていきます。

#### 【具体的な取組内容】

- ◆ 九十九里地域広域観光連携の推進
- ◆ 本町固有の地域資源の磨き上げと情報発信の強化

| 取組内容             | 実施年度 |     |     |     |      |
|------------------|------|-----|-----|-----|------|
|                  | R 6  | R 7 | R 8 | R 9 | R 10 |
| ① 多様な主体間による連携の強化 |      |     |     |     |      |
| ② 広域連携の推進        |      |     |     |     |      |

## 第5章 リーディングプロジェクトの展開

### 1 リーディングプロジェクトの設定

本計画では、片貝中央海岸の拠点化をリーディングプロジェクト（※計画期間の前半で重点的に実施する事業）に位置付け、観光ビジョンの実現に向けた計画全体を先導していく事業とします。

リーディングプロジェクトの対象範囲と現況特性については、以下のとおりです。



図 5-1 リーディングプロジェクト範囲

## 2 リーディングプロジェクト構想案

本計画のリーディングプロジェクトを進めていくため、観光ビジョンや基本目標を踏まえ、各エリアと整備の方向性を以下のとおり設定します。

### （１）既存施設の改修・機能向上

片貝中央海岸の来訪者の満足度や快適性の向上を図るため、既存施設の公衆トイレ及びシャワー施設の改修を検討します。

### （２）賑わい拠点

観光地としての集客力の強化や、町内観光の回遊性の向上を図るため、町内観光の核となる施設の整備を検討します。

### （３）スポーツエリア

海岸資源を活かしたスポーツイベントの充実や集客力の強化を図るため、新たなコンテンツとしてスポーツに関する空間づくりに努めます。

### （４）レジャーエリア

海岸景観の活用と集客力の強化を図るため、自然の中で過ごす環境整備や体験型コンテンツの企画・開発を検討します。

### （５）修景エリア

通年型観光の振興と集客力の強化を図るため、休憩施設や海岸特性と広さを活かした修景空間づくりを検討します。

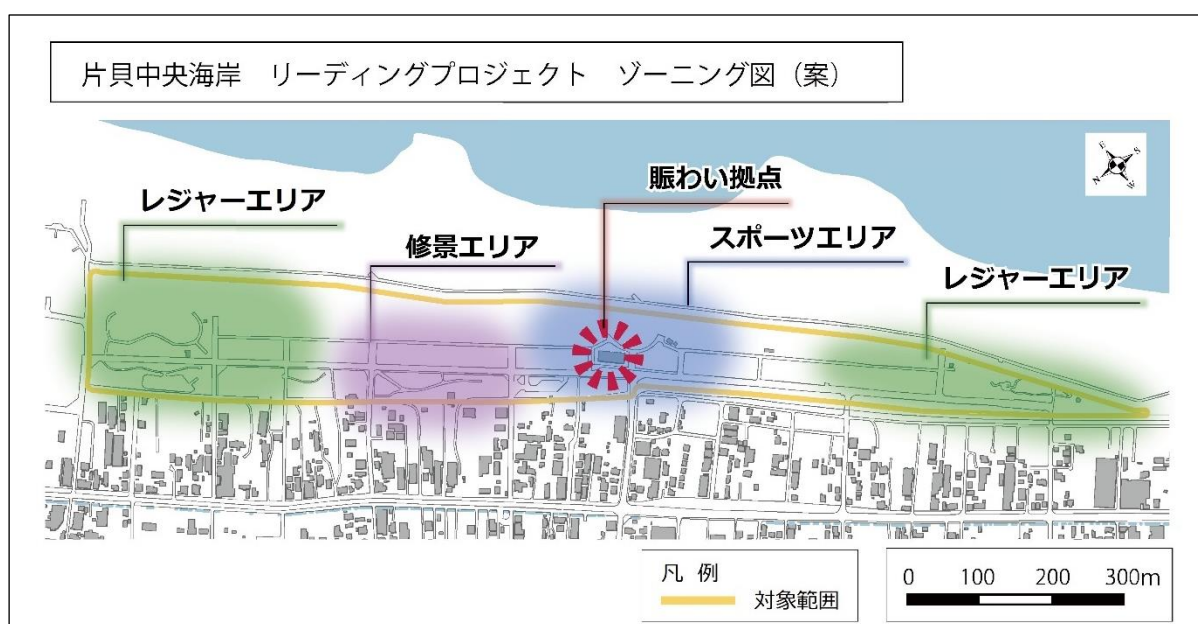


図 5-2 リーディングプロジェクト ゾーニング図

### 3 想定される事業手法

事業の実施にあたっては、従来方式（官設官営）の他、下記の事業手法が考えられます。

#### 手法① PFI（Private Finance Initiative）方式

PFI とは、行政と民間事業者が連携して公共サービスの提供を行う手法の一つで、公共施設などの設計・建築・維持管理・運営などを民間事業者の資金とノウハウを活用し、効率的で効果的な公共事業を実施するための方法です。

PFI の事業方式には、「BTO 方式」や「BOT 方式」、「BOO 方式」、「RO 方式」など、いくつかの事業方式があり、工事完成後の施設の所有者や、整備する施設が既存施設か新設施設かにより事業方式が異なります。

PFI の事業方式については、下表のとおりです。

表 5-1 想定される事業方式

| 事業方式                                   | 内容                                                  |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| BTO 方式<br>(Build Transfer and Operate) | 民間事業者が施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式。 |
| BOT 方式<br>(Build Operate and Transfer) | 民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営し、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。       |
| BOO 方式<br>(Build Operate and Own)      | 民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営をするが、公共への所有権移転は行わない方式。         |
| RO 方式<br>(Rehabilitate Operate)        | 民間事業者が自ら資金を調達し、既存の施設を改修・補修し、管理・運営を行う方式。             |

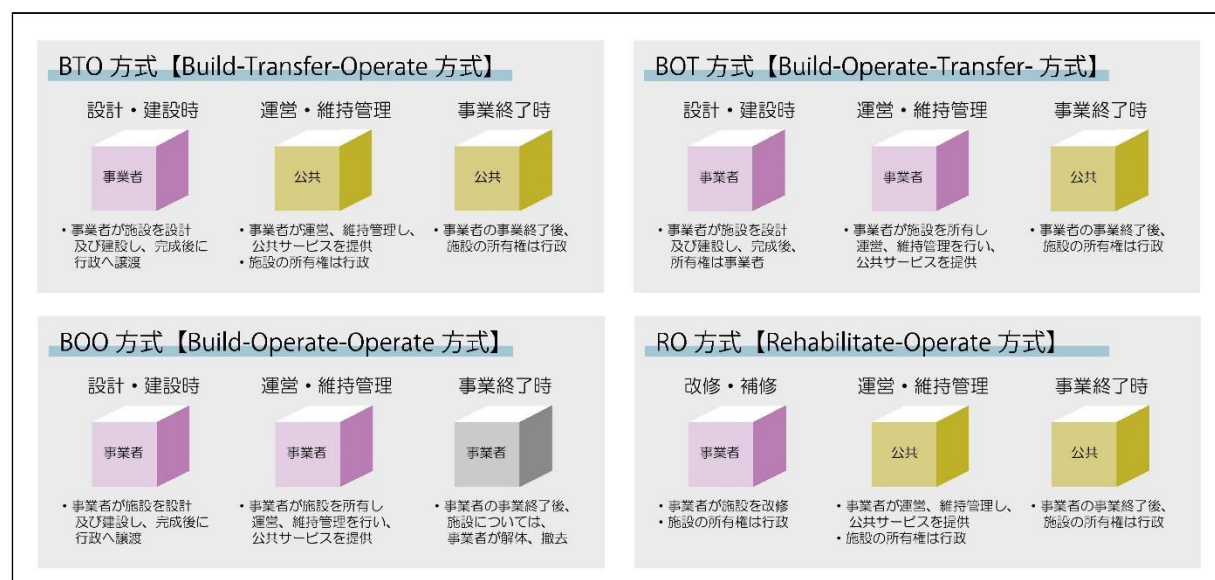


図 5-3 想定される事業手法

#### 手法② 財源の確保

従来方式（官設官営）で事業を推進する場合などは、各施設の改修や設置工事が予定されるため、町営駐車場の運用や運営体制等を見直し、財源の確保に努めます。

## 第6章 計画の推進にあたって

### 1 計画の進行管理

本計画で設定した施策や具体的な事業の実施にあたっては、事業の進捗管理を円滑に進める手法の1つであるPDCAサイクル（Plan-Do-Check-Act cycle）を導入し、取組を継続的に改善していきます。

また、進捗・達成状況の管理については、町及び町内外の関係機関・関係団体等の間で情報共有を図り、具体的な状況を点検・把握して、年度ごとの取組状況について、評価を行っていきます。また、必要に応じ、目標達成に向けた課題の再整理と取組内容の見直し・改善を行っていきます。

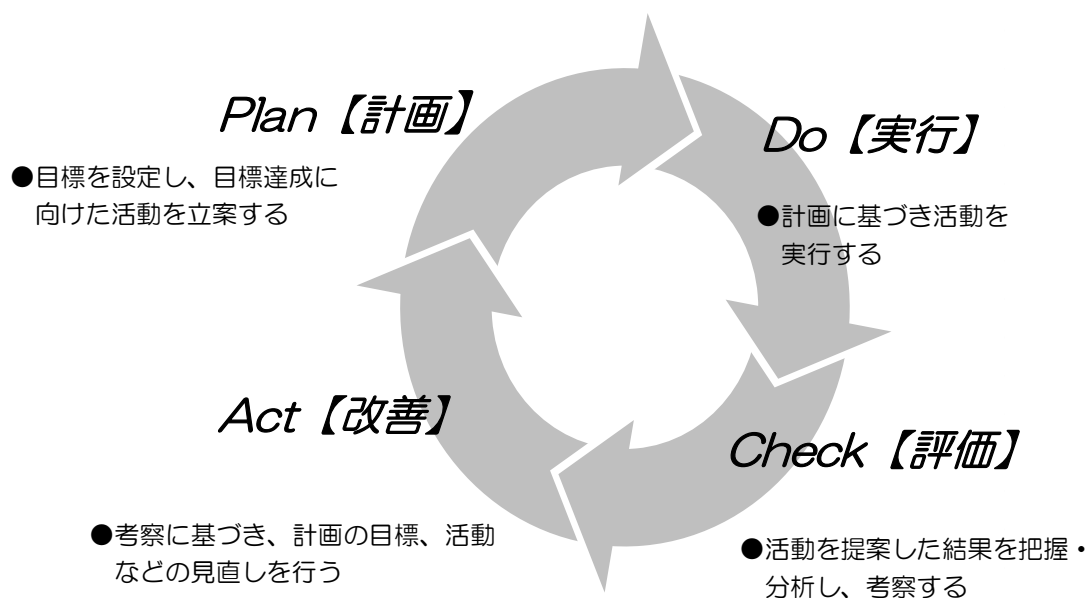


図 6-1 PDCAサイクル

### 2 町民・事業者との協働の推進

本町の観光振興を進めるためには、基本施策4でも掲げたとおり、町民、町内事業者、さらには国や県、その他広域的な関係団体等との協力が不可欠となります。

そのため、関係者間への迅速な情報提供とリアルタイムでの情報共有を図りつつ、町民参加を含めた協働を推進しながら、様々な助言やアイデアを取り入れることで、九十九里町のブランド力の強化と更なる情報発信の強化に努めていきます。



## 九十九里町観光振興ビジョン

令和6年3月

九十九里町 商工観光課

〒283-0195 千葉県山武郡九十九里町片貝 4099

TEL : 0475(70)3177 FAX : 0475(76)7934

Mail : [kankou@town.kujukuri.chiba.jp](mailto:kankou@town.kujukuri.chiba.jp)